

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ⑦

高谷中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第7回検討委員会の概要をお知らせいたします。

- 1 日 時 令和3年10月16日(土) 10時00分～11時40分
- 2 会 場 信篤公民館 第2会議室
- 3 構 成 ・委員長：大学教授
(19名) ・委員：各学校(高谷中・信篤小・二俣小)の学校運営協議会代表
- 4 内 容 ・報告事項：報告会での質疑・応答およびアンケートについて
・協議事項：小中一貫型小学校・中学校の実施について
- 5 報告及び協議内容

※ 教育委員会の説明事項は概要を記載しています。11月末ごろに「会議資料」をホームページに掲載しますので、詳しくは、そちらをご覧ください。

【教育委員会⇒分野別情報「学校教育・学校施設」⇒義務教育学校の設置に関する検討委員会】

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/edu20/1111000002.html>

報告

○報告会での質疑・応答およびアンケートについて

(1) 日時、会場、時間、参加人数

日 時	会 場	時 間	参加人数
7月27日(火)	高谷中学校 PTA会議室	14時00分～15時00分	3名
7月30日(金)	信篤小学校 職員研修室	9時00分～10時00分	6名
8月2日(月)	二俣小学校 ランチルーム	16時00分～17時00分	3名

(2) 主な質問・確認事項等(アンケートの内容も含む)

○小中一貫教育の制度に関する事項 ・中学校の免許状を持っている小学校の教師が教えるのか ・教科担任制では学級担任が他の学級学年で教えるのか など 計7件
○部活動、行事について ・部活動は3校合同で実施するという事か ・運動会などの行事は3校合同で行うのか など 計5件
○施設の整備やスケジュールについて ・一体型の義務教育学校の整備はどうなるのか ・事業期間はどのくらいを目標に完成させていくのか 計2件
○八街市の事故を受けての通学路の安全対策について 計1件
○その他要望事項等 ・子どもたちにも説明して欲しい ・プリントだけではわからなかったので説明を聞いてよくわかった 計7件

協議

○小中一貫型小学校・中学校の実施について

(1) 高谷中学校ブロックにおける小中一貫型小学校・中学校の実施について

①実施の理由

- ・信篤小学校と二俣小学校の学区が一致しており、小中一貫教育の推進が図りやすい地域である。
- ・二俣小学校の周辺環境が大きく変化し、将来的に、児童生徒数の減少が見込まれる。
- ・3校の保護者アンケートの結果、約7割の保護者が小中一貫教育の推進を肯定的に捉えている。

②小中一貫型小学校・中学校を設置する目的

平成27年度から小中一貫校としてスタートした「塩浜学園」では、教科担任制による学力の向上や幅広い年齢での交流活動による自己肯定感の高まりなどが成果として見られ、小中一貫教育には、児童生徒の成長や教職員の指導力の面で高い効果があることがわかりました。そこで、市川市では、教育の質の一層の向上を図るため、令和元年に「義務教育学校の設置に関する方針」を策定し、この方針に沿って、高谷中学校ブロックに「小中一貫型小学校・中学校」を設置していきます。

小中一貫型小学校・中学校とは、小学校と中学校の枠組みは残したまま、それぞれ組織上独立した学校が、一貫した教育を行う形態です。

③小中一貫型小学校・中学校の教育効果

<新たに実施できる取り組みについての特徴>

- 義務教育学校と同様に、教育課程の特例を設置者の判断で創設できるため、4年—3年—2年、5年—4年など、学年段階の区切りを柔軟に設定することが可能になる。
- 「新しい教科の創設」、「小・中学校の指導内容の前倒しや入れ替え」、「小学校段階からの教科担任制の実施」等も可能となることなど、義務教育学校で実施できる「特例制度」を利用することができる。
- 所属する学校だけでなく、他の学校の教職員として任用させることもできるため、小学校と中学校の連携の推進だけでなく、小学校同士の連携も推進される。

<現在と環境が変わらないことに伴う特徴>

- 小学6年生のリーダーとしての活躍を、そのまま活かすことができること。
- 今までと同様、各学校に一人の校長、一つの教職員組織は変わらず学校運営ができること。
- 学校の正式名称も今と変わらない。

(2) 今後の実施スケジュールと通称名について

- ・令和4年4月から小中一貫型小学校・中学校の設置に向け、今年度中の取り組みは以下の通りです。
 - ①高谷中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校に関する基本計画を策定します。
 - ※この基本計画には、3校で1つの「教育目標」や「通称名」などを定めます。
 - ②3校の校長、教頭、教務主任を含む教職員の代表からなる「プロジェクト会議（仮）」を設置します。
 - ※この会議では、具体的に実施できる内容などについて話し合い、できるところから実施していきます。

(3) 東国分爽風学園の取り組みについて

- ・今年度より、小中一貫型小学校・中学校としてスタートした、東国分中学校ブロック（東国分中学校、曾谷小学校、稲越小学校）では、通称名を「東国分爽風学園^{そうふう}」としました。現在までに話し合われた内容や、実際に3校で取り組んだこと、今後取り組もうとしていることは、以下の通りです。

<今年度実施したこと>

- ・3校での「オンライン集会」「オンライン研修会」を実施しました。
- ・3校の学園目標、めざす学園像、子ども像、教職像から、3校でめざす方向性を示した「グランドデザイン」を作成しました。

<現在検討していること>

- ・令和4年度から新しい教科が実施できるよう、3校の教務主任の先生方を中心に検討をしています。
- ・3校で実施できる内容（交流・連携・部活動参加など）について、検討をしています。

(4) 小中一貫型小学校・中学校に関する基本計画について

・基本計画では、以下の項目等についてとりまとめ策定していく予定です。

- 市川市における小中一貫教育について
 - ・本市の基本的な考え方
- 高谷中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校について
 - ・対象校、実施形態
 - ・通称名
 - ・高谷中学校ブロックで実施する目的
 - ・高谷中学校ブロック小中一貫型小学校・中学校の目指す方向
 - 3校共通の教育目標（学園目標）、めざす姿（学校、児童生徒、教職員）
 - ・実施する教育課程
 - ・期待される教育効果
- 教育委員会の取り組み
 - ・3校で実施する際の運営支援
 - ・検討体制
 - ・今後のスケジュール
 - ・計画の位置づけ

(5) 協議の内容（○：委員長及び委員 ●：事務局及びオブザーバー）

- 子供たちは、まだ全然知らないで、いつ、どのように伝えていくか考えていかなければいけないと思いました。また、高谷中には、生活のルールを示した「5つの当たり前」がありますが、学級により定着の差があります。3校が1つの学校になる際、見直すきっかけになればと思います。
- 子供たちへの伝え方は、小中一貫型小学校・中学校とは、どのような学校か、なぜ通称名をつけるのか発達段階に応じて2パターンの説明動画を作成し、視聴していただく予定です。また、その動画と合わせて保護者の皆様にも文書をお配りする予定です。
- 東国分中ブロックで、すでに今年度から始まっていることは、参考にできると思います。通称名について、私たちも子供の声をまず聞きたいと思います。良い名前を選ぶことができればと思います。
- 基本的に進めていくのは賛成です。先ほどの塩浜学園、東国分爽風学園の話を伺い、それぞれメリットがあることや肯定的な意見が7割あることもよい傾向だと思いました。しかし、逆に3割ぐらい反対意見があります。もしかしたら説明が、よくわからず、何となく反対があるかもしれません。丁寧に説明していくことが必要だと思います。中学校の先生が、小学校でどういう授業をしているかわからないことが、一貫校になることで、理解が進むようになることは、非常に良いことだと思いました。
- 印象に強く残ったことは、東国分爽風学園で、新しい教科、「ふるさと探究科」を検討しているということでした。「帰ってきたいまちづくり」とても共感しました。
- 現在、市川特別支援学校も小学校や中学校と交流をさせていただいておりますので、この後一貫型になっても交流という形でつながっていければと思っています。
- 学校の立場で何をしていくかイメージすることができました。1点懸念される点は、非常にタイトだと感じました。しかし、ゴールは決定しているので、それに向けて進めていきたいです。その際に学校運営をしていく上で学園教育目標を立てるため、子供たちの思い、保護者の思い、地域の思いを担当課と協力して集約し、取り組んでいくことがまず必要だと思っています。
- まだ十分理解することができていません。説明からは、イメージがわきにくいと思います。自治会では、子供たちが、ここは自分のふるさとと思えるまちづくりを理念に、活動していることが、東国分爽風学園の活動とよく一致しています。今後東国分爽風学園の取り組みをぜひ教えて頂ければと思います。
- まだわからないという人がいるのは、確かにいると思います。丁寧にご理解をいただくことが大切だと思いました。東国分爽風学園の取り組み「ふるさと探究科」具体的にどう子供たちが参加しているのか紹介も必要だと思っています。

- 小中一貫校が出来ることを明確に地域の皆様へ伝えてよいか。もう一つは、計画がタイトではないかです。例えば、道徳教育は、各学校で特徴があり9年間を通して、一つにまとめることは短期間で、対応することができるのですか。
- まず1点目、地域の皆様にお伝えしていただくことは、大変助かります。2点目の道徳教育は、9年間でどのような道徳教育を実施したいのかをじっくり検討する必要があるのです、急に変わるのではなくて、時間をかけて確立するイメージを描いております。
- 3つの学校が1つにまとまることで、子供たち、先生方、保護者も3倍になり、パワーも3倍になるのではと楽しみに待っています。新しいことを始めるにあたり、どこかにデメリット、懸念事項がないか少し心配しております。もし塩浜学園など前例で大変なことがあれば、参考に教えて頂きたい。
- 子供たちの成長につながるので、小中を分けること自体が間違っていると思うほど、子供たちにとっては良いシステムです。そのシステムを整えるのに、かなり時間かかるということと、やり方を間違えた場合は、もしかしたら子供にとって大きなデメリットになっていくということもありますので、しっかり話し合っ進めていく必要があると思います。
- 小中一貫校になるときに、まず、地域の方々のどんな学校にして欲しいか、どういう学校にしていくか、そういう願いを吸い上げることから始めて欲しいです。また、この地域は、まちづくりと一緒に検討していく必要があり、どういう学校にしていくか最終的なゴールがまだ見えていません。そして、小中の教科の交流については、カリキュラム作りをしていくことが大切ではないかと思っています。数学の先生が、算数を教えることは、教え方が違うので、教科の特性をきちんと理解した上で行わなければなりません。まず具体的な教育内容から話し合っ進めていく必要があるのではないのでしょうか。
- 地域の方々の思いや願いは、我々の検討会の中で、出来る範囲内で吸い上げ議論をしています。その中で、議論の積み重ねは評価していただきたいと思います。小中の教科の交流について、先進事例では、一貫校の小学校、中学校でしっかり研修を重ねて実施しています。今後具体的に進めていく中で、ご提案いただければと思います。
- 小中学校の先生方の交流は非常に良いと思いますが、今でも学校現場は激務ということを知っています。教育委員会の方で、激務にならない指導をしていただけたらと思います。もう1点は、信篤小と二俣小の通学路の危険箇所を教えて頂ければと思います。
- 現場の先生方に対しては、我々教育委員会が主体となり、先生方に負担のないように努めてまいります。通学路については、関係部署が把握して市長部局、市内全体でどのように対応していくか検討しております。今後お示しできるものがあればお伝えします。
- 以前、コミュニティサポート委員会があり、高谷中ブロックでは、ねぎぼうず祭りを実施しておりました。そこでは、小学生と中学生の交流から中学生の自己肯定感が高まる活動も見られました。自分も保護者、地域の住民として関わったことを思い出しました。小中一貫校の良いところを進めてほしいと思います。
- 3点。1点目、小中一貫型になった際に具体的に変更になることを説明して頂ければと思います。2点目、教育課程の決め方はどのタイミングで決まるか。最後3点目、この先5年後10年後、どのようなロードマップがあるのか教えて頂ければと思います。
- 変わらないこともあるけれども何が変わるか、わかりやすい説明が必要だと思います。また、一貫型の教育課程にふさわしいか、慎重に考えていただきたいと思います。3番目のロードマップは必要だと思います。改革には、先を見据えた上でどういう夢が描けるのか、地域コミュニティの中で、学校がどう育つのかという視点は、大切です。
- この地区は、子供たちのあいさつがよくできていて気持ちよく挨拶を返してしてくれる子供が多いと思っています。地域に愛着を持つというのは、どういうことか。たぶん学校生活が充実していてとても楽しい思い出がたくさんあり、すごく自分たちは、頑張ったという思いを持って卒業していくとその学校への愛着、地域への愛着は自然とついてくると思いました。ぜひ教育内容の充実がこれからの地域への愛着、ふるさとに通じていくと思いますので、ぜひめざす学校像に入ってくればありがたいと思いました。